

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

1時45分まで暫時休憩といたします。

〈午後1時40分 休憩〉

〈午後1時45分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、動物愛護の取組について。

(1) 多頭飼育による生活崩壊の防止策について。

- ① 多頭飼育に陥りやすい傾向や行動について、周知を行っているか。
- ② 生活崩壊の予兆や不安がある場合、市の相談窓口はあるか。
- ③ 生活崩壊があった場合、動物を預かる施設は確保されているか。
- ④ 生活崩壊後の飼い主への指導や支援は、どのように行うか。

(2) 動物用マイクロチップ装着の促進について。

ペットの迷子や脱走があったときや、災害時にペットが行方不明になったときの対策として、マイクロチップがある。そこで、マイクロチップ装着費補助事業の創設と、この事業利用者から飼い猫等の基礎情報を提供してもらう考えはあるか。

(3) 災害時の同行避難の受入れについて。

- ① 避難所収容時に駆虫薬の十分な備蓄はあるか。
- ② 動物用マイクロチップリーダーは、用意してあるか。
- ③ 同行避難に関する情報を安心メールで配信する考えはあるか。

2、市施設の点検と改修について。

(1) 美山公園にある貯水池の排水施設について。

経年劣化により排水溝本体の裏側に水の浸入が見られる。大雨や豪雨のときに排水溝自体

が崩れるおそれがある。その対応を考えているか。

(2) 通学路や高齢者がよく利用する道路において、側溝と用水路のガードレールやガードパイプの点検と修繕について。

① 側溝の深さや傾斜による段差や、側溝の規格違いによる横ずれ段差などによる流れの不備のチェックは行っているか。

② 小さな子供の足が入るような側溝の蓋の口について、簡易な蓋をすべきと考える。地域や学校で総点検を行い、必要に応じて蓋をする考えはあるか。

(3) 地区から市への要望書の書式について。

地区にとってメリットや貢献度のない施設については、市自らが地区に迷惑をかけないように心がけるべきであり、地区要望書に場所、理由、写真の添付を求める書式は本末転倒していると考え。施設の性格によっては指摘項目のみでよいと思うが、改める考えはあるか。

3、コロナ禍における子育て支援について。

(1) 新生児特別定額給付金（1人10万円）事業の実施について。

国から、第2次補正予算で増額した地方創生臨時交付金について、自治体が独自で行う新生児への給付金に活用できる旨の通知があった。コロナ禍で子育てする保護者に給付する考えはあるか。

(2) ひとり親世帯でコロナ感染した場合の支援について。

① 働くことができなくなり所得を得られない場合の支援はあるか。

② 感染していない子供の面倒を見る支援はあるか。

③ 感染した保護者の身の回りの生活支援はあるか。

(3) 子供の定期予防接種の状況について。

コロナ禍により医療機関に行くことをためらう保護者が3割程度いるという報道が以前あったが、市内の予防接種率はどうなっているか。

(4) コロナ禍におけるインフルエンザ対策の強化について。

① 子供及び妊婦のインフルエンザ予防接種費用助成について、コロナ禍のため収束するまで全額無償化で対応する考えはあるか。

② 市内全体の蔓延防止のため高齢者の接種費用補助があるが、市独自に接種を促すため、補助対象や補助額を拡充する考えはあるか。

4、「子育てするなら糸魚川」と呼ばれる子供のためのまちづくりについて。

市は、「子ども一貫教育基本計画」を作るなど、子ども教育や子育てに力を入れている。後は成果を整理して情報発信を行うだけである。

(1) 市内の子どもスキー教室の成果を分析しているか。

(2) 中学生海外派遣事業における、英語検定とジオパーク検定の成果を分析しているか。また、事業参加者の進路調査を行っているか。

(3) キャリア教育における中学生職場体験事業と、高校生を核とした地域人材育成事業の成果を分析しているか。

(4) 陰山メソッドにおける1年間の学習内容の把握とスピードを意識した学習により、分からないところをすぐに埋める思考や学習の集中力に変化は見られるか。

(5) 通年で「興味を育てる」遊び場（体験する場）の提供について。

- ① 博物館・図書館等の公共施設における成果を分析しているか。
- ② キターレ・道の駅等の商業施設における成果を分析しているか。
- ③ ジオパル・フォッサマグナパーク・美山公園や、須沢臨海公園等の各公園における成果を分析しているか。
- ④ 市の宿泊施設やキャンプ場における成果を分析しているか。

5、デジタル社会の推進について。

デジタル技術は手段であり、「人間中心のデジタル化」を加速すべきである。高齢者、障害者、生活困窮者など「情報弱者」になりやすい方たちへのサポート体制の整備も不可欠であり、SDGs同様に「誰一人取り残されないデジタル化」が大事である。また、新型コロナウイルス感染症による人と人の分断を「デジタル技術」で克服することが求められている。

- (1) マイナンバーカードのメリット向上策について、考えはあるか。
- (2) 自治体間の行政システムの統合について、考えはあるか。
- (3) 行政サービスのロボット化に向けた準備は行っているか。
- (4) 市民一人一人のデジタル化の促進について。  
スマートフォンやタブレットの情報弱者への普及策を考えているか。
- (5) 産官学連携による市独自のアプリ開発とその導入について。
  - ① デマンド式タクシーやバスの乗車予約や鉄道切符等の購入ができる公共交通機関の利用のアプリを考えているか。
  - ② 医療機関で共有できる電子カルテアプリを考えているか。
  - ③ 移動販売やデリバリータクシーの注文アプリを考えているか。
  - ④ 食品ロス削減（フードシェア）アプリの導入を考えているか。

6、市の観光・レジャー施設等の成果と分析について。

(1) 「事務報告書」の書式改善について。

事務報告書では単価やその年の気象・政治・経済などの背景の記載がなく、利用者数と使用料の記載があっても前年対比する数字がないものなど、所管課や事業により資料の作り方がばらばらである。

そこで、比較できるように書式を統一する考えはあるか。

(2) 「事業目的達成度報告書」の作成について。

「決算書」は予算の執行状況、「事務報告書」は事業概要と利用状況である。目標に向かっている取組の程度が見えない。そこで、①事業目的のための取組経過、②年度背景、③費用に対する成果の分析と評価の3項目で報告書を作る考えはあるか。

(3) 指定管理事業や委託事業の評価について。

- ① 暖冬少雪やコロナ禍により「リスク分担」が注目されている。指定管理者や委託団体に対する営業評価は、どのように行うのか。
- ② スキー場や宿泊施設に見られる「コスト」と「まちづくり戦略」の検証は、どのように行うか。また、その市民周知を行う考えはあるか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、広報などで周知しており、生活崩壊の様々なケースには、環境生活課が窓口となって県や関係機関と連携し、対応しております。

2 点目につきましては、現在のところ考えておりません。

3 点目の 1 つ目につきましては、避難所においては飼い主が準備することを基本といたしております。

2 つ目につきましては、県から借用できることとなっております。

3 つ目につきましては、引き続き同行避難についての周知を行ってまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、排水路の構造や現地の状況から、現時点では崩壊等の危険性は少ないものと考えておりますが、必要に応じて修繕を行ってまいります。

2 点目の 1 つ目につきましては、道路パトロール等により不具合を確認した場合は、速やかに補修するように努めております。

2 つ目につきましては、道路パトロールを実施するとともに地域や学校においても通学路等に係る危険箇所の点検を行っており、必要な対応をいたしております。

3 点目につきましては、原則として要望箇所の位置図と写真の添付をお願いいたしておりますが、施設の様子が分かる場合など、内容によっては柔軟に対応してまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、現時点で給付の予定はありません。

2 点目の 1 つ目につきましては、緊急小口資金の貸付などセーフティネットの活用により支援してまいります。

2 つ目につきましては、親族等による支援が受けられない場合は、児童相談所での保護も可能であります。

3 つ目につきましては、感染時には入院することとなっております。

3 点目につきましては、昨年度と比較して接種率は上昇いたしております。

4 点目につきましては、高齢者などの必要な方にインフルエンザの接種を呼びかけてまいります。

4 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

5 番目の 1 点目につきましては、来年 3 月から健康保険証として利用が可能となりますが、今後、カードを利用した様々な取組を検討してまいります。

2 点目につきましては、現在、上越市、妙高市とともに財務会計システムの共同化を目指して定期的に協議を行っております。

3 点目につきましては、昨年度より R P A を試験導入いたしており、今年度も引き続き費用対効果も踏まえて導入を進めてまいります。

4 点目につきましては、地区公民館等において市民向けのパソコンの設置、W i - F i 環境の整備を行うとともに講習会等を行ってまいります。

5 点目につきましては、費用対効果も含め検討してまいります。

6 番目の 1 点目につきましては、掲載する項目や数値の比較をしたほうが分かりやすいものについては、書式を含め検討してまいります。

2 点目につきましては、毎年、事務事業評価を実施いたしております。

3 点目につきましては、主要な指定管理施設は、部外委員を含む指定管理者選定委員会による評価を行っており、評価結果を市のホームページにおいて公開いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

保坂議員の 4 番目のご質問にお答えいたします。

各事業の内容に応じ、事業の評価を行っており、子育てしやすい町として広報や SNS 等を活用し、さらなる情報発信に努めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10 番（保坂 悟君）

順番を変えてよろしくお願いいたします。

まず、大きな 3 番、コロナ禍における子育て支援の拡充についてであります。

まず、(1) 番の新生児のところでございます。1 人 10 万円の特別定額給付金は、公明党の山口代表が安倍首相に直談判して実現しておりますが、基準日となる 4 月 27 日の翌日以降に生まれた人には支給されておられません。本会議初日の行政報告で、市長は、特別定額給付金が 99.8% で 41 億 7,700 万円の給付がされており、ほぼ市民全員に行き渡っていると報告がされました。つまり、市民ニーズがあり、特段トラブルもなく申請していることを考えると、新生児に対しての給付もほぼ 100% が期待できます。

また、給付金は、結果的に市内の経済への反映にもなりますし、単純にコロナ対策でマスクをはじめ、消毒や除菌シートなど消耗品、また、非接触型体温計などの健康管理に必要な機器で出費がかさんでいるかと思われます。

しかし、全国の自治体では、コロナ禍の感染に注意しながらの出産と育児を行う保護者に祝いと激励の意味を込めて給付しているところがたくさんございます。

また、少子高齢社会の中、100年に一度の災害の中で産声を上げてくれたことに感謝し、今年度予算化した行事やイベントで中止になっている減額する費用や、また議会費の市外調査等、議会交流費などの減額分をこういった新生児に回してもらい、そういう意味でもぜひ取組を検討していただきたいんですが、再度ご回答いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問にお答えいたします。

新生児への定額給付金につきましては、県内でも独自で各市町村が給付しているということは承知しております。糸魚川市におきましても、子ども誕生お祝い事業で2万4,000円の商品券を贈呈しているところでありまして、また、糸魚川総合病院で分娩された方には5万円の奨励金を交付するなど、子供の出生に関しては独自の支援をしております。

臨時交付金を財源として、保育園、学校での蛇口の自動化なりトイレの洋式化など、まずは子供たちの感染防止対策というところを講じたいということから、今議会に補正予算をお願いしているところでありまして、今ほどの市長答弁となったものであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

もう話し合われて結論が定まっているような感じなので、これ以上言ってもあれなのかなと思いますが、ただ、今後ほかの自治体からも、またこういった取組が出てくる可能性もございますので、少したわみを持って、状況を見ていただければなと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

臨時交付金を財源とするかどうかは別としまして、先ほど議員おっしゃるとおり、4月27日までのお子さんが給付金を受けられてというような不公平感もあることは、十分承知しております。そういったところを踏まえて、子ども誕生お祝い事業の拡充ですとかそういったところを踏まえまして、広く検討させていただきたいなというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

トータル的に金額がそれ相当のものになれば、それはそれでまた理由というか納得ができるかと思しますので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

次に、（2）番のひとり親世帯のコロナに感染した場合の支援であります。①番で、感染した場合、ひとり親という点で経済的支援金が給付されるものがあるのか、また、給付に向けて迅速性というか手続が簡素化されているか、そういうことを聞きたいんですけど、その辺どうなっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

申し訳ございません。給付金につきましては、今のところ感染された場合の給付金というのは制度はございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ごめんなさい。給付金制度がないのは、セーフティネットで迅速な対応ができるような形を何とかちょっと説明していただきたいということで、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

セーフティネットにつきましては、社会福祉協議会が実施しております。ご相談があつてから速やかに社会福祉協議会と連携しまして、対応していきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

相談されれば、すぐに対応できるというふうな認識で受け止めました。

次に、感染していない子供、要は親が感染して、子供が感染していない場合、児童相談所と言われるんですけども、具体的には、例えば学校に通うであるとかそういったところを面倒まで見てくれるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

保護者が感染して、子供さんの面倒を誰が見るのかというところでありますけれども、一義的には親族なりのご協力を頂くというところが一義であると思っています。ただ、どなたも面倒を見ることができないというご相談があつた場合には、私ども児童相談所に保護として預けるというところも可能性はございます。

ただ、小学校、学校の、保護になった場合は学校はやはりお休みになってしまいますので、そういったところも十分勘案しながら、ご相談に乗っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

すみません。要は通ってる学校の子供の親が感染した場合は、もう即学校が休みというふうに理解してよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

申し訳ございません。私のちょっと説明が不足しております。児童相談所は、上越にございます。保護するとなると、やはり上越に保護になってしまいますので、やはり市内のお子さんは、その保護所で過ごすこととなりますので、保護者が感染したので学校を休みになるというわけではなく、物理的な問題で、距離的な問題でどうしても通えなくなりますので、そういったところは慎重に児童相談所と連携して、また、相談に応じていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

じゃあ身寄りがなくて親が感染した場合には、場合によっては上越に行く。そのときにはもう学校は物理的に通えないので、そこで面倒を見てもらうという形なんですね、分かりました。

あと3番目、感染した保護者が、結局、自分が感染したためにいろいろ子供の面倒が見られなくなるものだから、その辺の経済的支援とか生活支援がどうなるのかなと思った。じゃあそれも児童相談所で対応するという認識でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

いろんなケースがあると思います。先ほど申しましたとおり、やはりご親族なりの力がお借りできるようであれば、そちらのほうにお願いしたいというふうに思ってますし、児童相談所というのは最終的なところだと思っていますので、やはりお一人お一人の状況をお聞きしながら対応していかなければいけないというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）



何でこんな質問をしたかというのは、やっぱり感染するまでは皆さんピリピリしているんですけども、感染後の様子というのは、皆さん事情によってばらばらですよね。どういった対応が取られていくのかって、なかなか分かりにくいものですから、今相談されれば迅速に対応してるといことなんで、ケース・バイ・ケースに合わせて、その家族が心配しないような対応をぜひ行っていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

次に、3番目、子供の予防接種の関係ですけども、糸魚川がそうだとことじゃないんですが、以前も聞いたかと思うんですが、今のところ、じゃあ子供たちの定期予防接種は順調に接種されると、問題ないということによろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほど答弁で、接種率は上昇していると申し上げました。昨年4月から7月の接種率が67.2%でありました。本年4月から7月の接種率は75.5%になっています。この原因としましては、要因としましては、国のほうも子供の予防接種と乳幼児検診は遅らせないでくださいというようなアナウンスをしております。また、そのアナウンスに合わせて、市内の医療機関の方々も、機会あるたびに保護者のほうに周知していただいている賜物といひますか、そういったところかなというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

むしろ数字が上がってるとこときは喜ばしいことかと思ひますので、引き続き対応をお願ひいたします。

次に、(4)番のコロナ禍におけるインフルエンザの対策でございます。これもいろんな自治体の取組もあるんですが、特に今回、インフルエンザ対策についてですが、季節性インフルエンザはコロナ感染症に症状が似ており、紛らわしいと言われておりますと。この秋以降、早めに接種するように国もワクチンの確保に動き出していると。そこで、市内のインフルエンザ蔓延防止の徹底のため思い切った対応を行う考えを聞いているんですけども、これもほかの自治体かなり力を入れて市民全体を対象にしたりとか、糸魚川市は、たまたま子供と妊婦には半額助成されて、進んでると思ひますけども、そういった同じようなサービスをしている自治体とかも出てきてますんで、また、もう一段、糸魚川市もこういったインフルエンザに力を入れていただひいて、要は、狙ひは医療機関の混乱を防ぐというところが主眼なんですけども、そういったところで再度、また医師会等とまた相談されて、検討していただきたいなどは思ひますが、その辺ご回答いただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

国で確保できるインフルエンザのワクチン量、これには限度がありまして、国民の約50%程度、全員が接種できるワクチンの量というのは、実はありません。このために高齢者、それから重症化する基礎疾患のある方、こういう方はまず接種が必要だということで優先的に確実に接種すると。このことが最も重要であるというふうに認識しております。したがって、補助対象を拡大した場合、必要とする方の接種、これが妨げられる心配など、こういうことが考えられますので、今のところ補助対象の拡大というのは考えておりません。

しかし、必要とされる方への優先的接種は、今後も呼びかけていきたいというふうに考えておりますので、既存対象者への補助額の拡充、これは今後の検討課題というふうにさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ワクチンが50%しか確保できないということなんですが、ただ、私の認識だと今回、糸魚川市もいろんな補助対象をして取り組んでこられてるんですけども、接種率も大体50%行ってないんじゃないかなと思って。今まで糸魚川市の取組として、100%近い接種率というふうになってないかと思うんですが、その辺の数字どんなもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

まず、定期接種として、高齢者でありますとか重症化する基礎疾患を持っておられる方、こういう方の予防接種については、たしか64.5%というふうに理解しております。県の平均よりも上回っております。

それから、子供だとか妊婦の関係でございますが、これについては60%ということに理解しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

もともとの質問に書いてあるとおり、やっぱりインフルエンザの接種を促すという目的でありますので、私は効果があるというふうに思いますし、これをしたからといって今100%ワクチンが使い切るのかといたら、私はそうではないと思っております。

ただ、今回、コロナ禍において医療機関を守るため、また、その重篤化を防ぐため、症状が似ることによってインフルエンザなのにコロナ対応しなきゃいけないということを考えたときに、脆

弱な医療体制の中で私は逆に重要だと思ってるんですけども、多分、意見の相違なのかもしれませんが、でも様子を見ながらほかの自治体と比べたときに、やっぱり糸魚川劣ってるということにならないようにぜひ配慮いただきたいんですけど、その検討の余地だけは残していただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

決して、それを検討しないということではありません。今ほど説明させていただきましたのは、補助対象の拡大、全ての市民に対してというのは、ちょっと専門家のお話を聞いても難しいのかなというふうに考えておりますが、必要な人に必要なだけ確実に行き渡る、優先的に行き渡るといような取組、例えば補助額の増額だとか、そういうものについては、今後の検討とさせていただきますということでありませう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひここは重要な場所なんで、そういうふうに捉えていただければありがたいなと思います。ぜひ対応をよろしくお願いいたします。

次に、番号大きい4番、「子育てするなら糸魚川」と呼ばれる子供たちのためのまちづくりについてであります。ちょっと時間がないんで、本当はもうちょっと詳しく聞きたかったんですけども、1番の雪国を生かす市内スキー教室の成果を分析しているかということなんですけども、糸魚川市のスキー場では、スキー教室を、スキー場のスキー学校ですか、やっていただいて、すごいと思うのは、やっぱりバスの送迎つきであつたりとか、料金が1万6,000円ぐらいで、回数が週1回で6回行つうもので、あと市からもリフト券で1日券500円とか半日券300円ということで、言葉悪いんですけども、子供をそこに預けてしまえばスキーができるようになるという、私はすごく画期的な取組だと思ってるんですね。ぜひ広報等で、おしらせばんかな、周知して、非常にいいことなんで、これも本当は事業化を暖冬少雪だ言いつつも、ぜひここは続けてもらいたいですし、私、糸魚川の子供たち、やっぱりスキーができる1つのステータスというか、そういうものを育む機会はずっと守ってほしいと思ってるんですけど、この事業をぜひ強力に推進していただきたいんですけども、その辺いかなあもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えいたします。

スキー教室につきましては、おっしゃったとおり市でやっているもののほかにスキー連盟ですとかというところで実施されております。本市としましても、この事業につきましては、冬期間の小

学生、中学生等の居場所ですとか、それから当然スキーに親しむということも考えておりますので、リフトの助成等につきましては、今後とも検討して、継続してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ちょっと表現が難しいんですけども、機会があればスキーが滑れるようになった子、数字も何人通ってどのくらい上達したかみたいなものも何か紹介して、もっとPRをぜひしていただきたいなと思います。

次に、中学生海外派遣事業の件でございます。これも糸魚川市の海外派遣事業の参加資格に英語検定4級以上だったかと思うんですけども4級以上と、あとジオパーク検定を受けていなくちゃいけないという資格条件がございます。私このタイアップ、市の職員のアイデアでタイアップをして、英語検定とジオパーク検定が毎年、定期的に受験されてるという、この成果を何とかこれも数値化してアピールしてほしいなと思うんですけども、過去のデータみたいなものというの是一覧で見られるような状態になってるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

本事業の成果につきまして、数値的なものについては現在まとめているところではありません。この成果については、参加者がまとめた報告書、あるいは参加者がその後に行う発表会等での報告、そういったものを基に成果を分析しているところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

私、今の成果報告だともったいないなと思っております。やっぱり英語検定の受験率であるとか、受験合格者数であるとか、ジオパーク検定につきましても上のほうに、達人でしたか一番上が、目立つ子供たちが出てくるのも期待してますし、そういった数値的な報告と、あともう一つ、海外派遣事業に参加した子供たちの進路についての追跡調査というのもぜひやっていただいて、全部が全部ご協力いただけないかもしれませんが、やっぱり海外派遣の経験を基にこういう職種に就いたとか、こういう興味を持ったであるとか、そういったPRも、私この事業には重要なポイントがあると思ってるんですね。だから、そういった紹介もしていただきたい。

なぜ今回この質問をしたかという、今回の香港が政治的にいろんな混乱を招いておって、なかなか今年度も行けなかったわけですし、今後もどうなるか分かりません。

ただ、ありがたいのはデジタル化ということで、いろんな世界の国々とのリモートでのジオパークの推進を図ったりとかという、そういう何ていうのか入り口を、この事業は担ってきたと思ってらるんですね。だから、そういった意味でいろんな可能性を秘めた事業であるので、さっきも言った英語検定であるとかジオパーク検定も、リモートの会議であるとか、いろんなイベントであるとかということも含めて、この事業をぜひ力強く推進し、またそういう成果についてもいろんな角度の成果というものもやっぱりPRとしてやっていただきたいんですけど、その辺の考えいかなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

先ほどお話ししたとおり数値的なものについては取っておりませんが、参加した子供たちに共通していることは、英語のコミュニケーションの自らの未熟さを痛感し、さらにレベルアップしたいというふう述べているところです。帰国後、さらにまた英語検定に再チャレンジするというふうな生徒も見られます。

また、卒業後の進路でございますけれども、こちらのほうも参加者の進路について調査してるわけではないんですけども、進路を決める際にもやはり海外派遣での経験が影響しているものと捉えております。例えば現地学生との交流などから、将来的に留学を目指しているというふう述べている者、あるいは海上巡検というのがあるんですけども、そこでの感動を基に今船員を目指して高校に通っているというふうな子供もおります。以上、紹介です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足してお答えいたします。

私もやはり議員ご指摘のとおり、どのような経過をたどっておられるかなというのを追跡したいという気持ちでおったわけではありますが、個人情報の保護という形の中で、なかなかそれがうまくいってないところがございます。いろんな仕事の中であったり、また、いろんな行動の中でお聞きしているのは、私も海外派遣で香港へ行ってきましたという人たちが結構おられたり、市の中の職員に当たってもそういった経験があるという話も時々出てきますので、決して方向性は悪くないなと。その辺の結果とか評価の仕方というのは、なかなか難しいんですが、やはり一番どのような経過の中で進めておられるようなものが明確になればいいんですが、なかなか見にくいのも今の現状でございます。そういったものをなるべく分かるようにしていきたいとは思っておりますので、情報提供はしっかりしていきたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

市長、ありがとうございます。またそれ大事な事業だと思っておりますので、また、全員で見守って、いい事業にしていただければなと思っております。

次に、（3）番、キャリア教育について、中学生とか高校生の体験学習なんですけども、正直言いまして今デジタル社会がかなり進んできてまして、これまでになかった仕事が出てきたりとか、逆にこれまであった仕事がなくなってったりとかという、こういう社会背景の中で子供たちは進路を決めたり、自分が何が得意なのか不得意なのかといったところを今、学びの中で吸収しているんだろうと思うんですけども。逆に、大人たちもやっぱり変化に敏感にならなくちゃいけないという面もありまして、やっぱり生徒さんたちと企業の連携するような事業というのもどんどん手厚くしていって、お互いがいろんなものを吸収できるような場を糸魚川市として独自に展開してもらいたいんですが、一層のこういう事業への、ただ大人が自分の経験をただ教えるというだけじゃなくて、本当に何ていうのか話し合ったりとか、もっと今ある技術を違うことに転換できるんじゃないかとか、あと逆に子供たちのほうが、今いろんなデジタルの機器のことを知っていて、それをまた大人に教えてくれたりする場面もあるかと思うんですね。そういった場をやっぱり丁寧に事業展開というのをしてもらいたいんですけども、すごく抽象論で申し訳ないんですけど、要は今やってることをどんどん拡充していくような、そういう事業展開をしていただきたいんですけど、その辺の考えいかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

小中学校のキャリア教育については、先ほど別の議員さんの答弁のほうでも申しあげましたけれども、着実に進めております。特に中学校3年生の全国学力学習状況調査の中にあります地域への愛着、あるいは社会貢献意欲、こういったものが全国平均に比べて大変高くなっております。こうしたことは、キャリア教育の推進のある種成果というふうに捉えております。そういった意味で、やはり郷土愛と自己肯定感を高めるというふうなことが、キャリア教育の中でとても大事な基盤ではないかというふうに考えております。そういった基盤を踏まえまして、キャリア教育につきましましては、例えば今やっている中学校2年生の職場体験活動、こちらのほうを充実・進展させると同時に、今年度から3年生を対象にしたキャリア教育フェスティバルということで、市内の事業所と関係機関と、学校とが連携・協働で子供たちのキャリア形成のために取組を行っているというふうな計画でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

少し付け加えさせていただきますが、本年度はキャリアフェスティバルを行います。先ほど議員おっしゃったとおり、やはり子供は本物に触れるということが非常に大切だと思っております。出展

する企業の皆さんにも、やはり子供を子供扱いしないで接していただいて、企業も子供から学び取るというようなところを重点的に行っていきたいという今計画であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ここはちょっと提案なので、質問とはちょっと趣旨が違うんで聞いてもらいたんですけども、平成25年の12月定例会で建設産業常任委員会の委員長報告で、富山県の南砺市のアニメによる観光PRの手法というものを視察して、調査報告をしております。私自身も平成25年に海洋高校の産学官連携事業でアニメを導入したらどうかという提案を議会にさせてもらっております。そのときも妖怪の猫のアニメがあって、妖怪ウォッチですか、そういったものとかポケモンGoだとか、あとちょっとアニメとは違うんですけども、等身大ガンダムのシンボルを持ってこれないかとか、そういう話したんですけども。何が言いたいかというと今日、田原議員のほうかもアニメを活用して高校生にPRということがあったんですけども、逆に子供たちのほうがゲームとかアニメとかユーチューバーだとか、いろんなことを知ってまして、地域にある、例えばセメント製造、石の加工、能水商店、カニ漁師、のどぐろ養殖、越の丸茄子、酒蔵、地元杉、大糸線、えちごトキめき鉄道、観光施設等々、こういったものを子供たちと大人が一緒になってPRできるものを作ったりとか、新しい商品開発をしていくような、いわゆるマルチメディアという言い方をするんですけども、そういったものも大人の発想じゃなくて、これからを担う子供たちの発想を取り入れたそういった産業おこしとかPRの展開とかというのを、私系魚川だと今の状況だとできるような気がしてまして、ぜひそういった取組を体験学習の中で織り交ぜることができればなと思ってるんですけども、そういったもし機会があればぜひ展開してもらいたいと思うんですけども、その辺考え方としてはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほど私申し上げたとおり、子供を子供扱いしないで企業もやはりしっかり子供から学ぶという意識というのは大切だと思います。

ただ、昨日、白嶺高校の学習もありましたけれども、建設業の方々から白嶺高校が実地で学んでいましたけれども、非常にいい学びだというふうに思っています。議員おっしゃるとおりお互いが学びあって、それを1つの製品なり1つの成果につなげていくというのは大事だというふうに思っていますので、今後もそういった意識で取り組みたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

続きまして、（5）番の通年で興味を育てる遊び場の提供についてということをお聞きさせていただきます。

時間がないので結論から言いますが、糸魚川市は博物館でフォッサマグナミュージアム、漫画の「宝石の国」とのコラボレーションをして、非常にヒットしているんですけども、その中でもアンタラクチサイト作りなんて非常に評判がよかったと思うんですけども、あと公民館でもいろんな様々な習い事、教室もしてますし、特に学校でいえば根知小学校の防災キャンプ、私はすごく非常にいい取組だなと。

ただ、糸魚川市でちょっと私、公共施設で不足してるなと思っているのが、やっぱり子供図書館といえますか、子供に特化した、子供が自由に学べる空間の提供というのが少し、学校図書館とまた違うんですね。やっぱりそこには人がいて、いろんなアドバイスをしてくれる専門の空間とか、そういった子供図書館の配置が必要かなと思うんですが、子供図書館の中にも親も来て、カフェみたいな空間であるとか、自由に触りまくっていいような本だとか、仕掛け絵本であるとか、何かそういう特殊な価値を持った子供図書館というものを、大きくなくてもいいと思うんですけども、そういったものを設置していく考えというのが、今公共施設を整理していこうという中で逆行するんですけども、子供に特化した図書館みたいなものの考えというのは、当市の計画の中にはあるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に糸魚川市は自然に恵まれております。そういう中にさらに恵まれておるのは、先ほどの前段のほうの一般質問の中にもありましたように、空いてる施設等もあるわけでありますので、そういったところをどのように子供たち、今の教育の中で生かしていくかということが、私は大切だと思っております。特に空いてる施設というのは、少子化の中において学校が空いてる。まだまだ使える学校が空いてるという状況があるわけでありますので、そういったところを教育で生かしたり、また、地域振興で生かしたり、糸魚川の活性化で生かしたのになっていければなと思っております。やはりもっともっと踏み込んだ教育であったり、そういったところに使っていければな。特に学校というのは教育施設であるわけですので、やはりそういったところで使うのが一番だろうと思っております。

また、これももう一つ、私は大切だと思うのは、合併前から取り組んできておる旧1市2町の森林施設、キャンプ場みたいなものもあるわけであります。今は少し老朽化してる部分もあるかもしれませんが、手をかけることによって、そういったところで教育、また、いろいろ宿泊型の体験学習なんかでもできる可能性も結構あると思うんです。そういうものをやはりもう一度見直すことも大事ではないかな。また、そういうところで、さらに踏み込んだ子供の学習支援なんかでもまた体験して、何でもできるのではないかなという今考えでありますので、全てができるわけではございませんにいたしましても、ある程度具体的なものを視野に入れてもいいのではないかと考えておる次第



であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今のちょっと市長答弁と少し離れるかもしれませんが、キターレのほうに児童図書を配置させていただいて、今度、ジオパルのほうにもちょっとマニア向けといいますか、鉄道の図書を置いてみたり、それと町なかで、図書を活用していただける方法も今取り組み始めたところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

子供図書館と一言で言っても、皆さんいろんなイメージのされ方すると思うんですね。それでいいと思うんですよ。要は子供たちに、テーマは子供たちの興味が育てられるかどうか。いろんな自主的に物事を学んでいけるようにできるかどうかということなので、逆に言えばどんな形でもいいと思ってます。子供たちの興味を引く仕掛けというものさえ造ってくればいいかなと。

あともう一つは、交通機関といいますか通える範囲かどうか、または先ほどの質疑でありましたけど、バスを使っていける範囲なのかとか、そういったところの工夫が逆に必要なのかなと思っております。

もう一点、私、糸魚川市に欲しいなという施設がございまして、実現するかどうか分かりませんが、今駅北まちづくり計画の中でにぎわいの拠点整備というのが、まだ話が残ってまして、それはどんな施設になるのかちょっと分からないんですけども、簡単に言うと子供のミニコンベンションホールといいますか、もっと分かりやすく言うと子供たちの理科の実験室みたいな施設、そこに来れば体育館だとちょっと床の問題があってできなくて、下がコンクリートというかしっかりしたところでいろんな実験ができるとか、屋内でドローンを飛ばしてみるだとか、あと、いわゆるでんじろう先生でしたか、ああいう科学実験をその場で一緒にできるような空間というか、倉庫みたいな形でいいんですが、そういった子供のコンベンションホールというものも造っていただいて、要は天気が悪くても利用できるようなものという感覚で、米田市長の答弁で使ってない施設を使えば、そういったことも可能になるのかなと思ってのんですが、そういう大きな大きな理科の実験室の提供みたいなものとか、そういう空間をぜひ作っていただきたいんですけども、その辺そういった考え方いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに子供の遊び場、居場所、特に天気が悪いというときには、非常にこの地というのは厳しいものがあると思うんですけども、やっぱり議員が今ご提案の理科センターとか学びの場というのは非常に大事だと思います。そこからやっぱり人材育成というのが始まってくるといふふうに思いますので、やっぱり学びの場を提供する、いわゆる探求心を起こさせる、そういったコンセプトでどこがいいのかも含めてなんですけども、いろんな要素を検討する中で、またそういったニーズは探らなきゃいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

なぜこんな分かりづらい言い方をするかということ、さっきの仕事ではないんですけど、子供たちがユーチューバーになる体験するために、ユーチューバーになり切れる、後ろが緑色の背景あって、いろんな画像を複合的に撮ることがことのできる、そういうスタジオであるとか。あとラジコンでもいいんですけども、そういったものを中で練習できる。好きでプロになっていく人ばかりじゃなくて、いわゆるビギナーというか、さっきのスキーもそうなんですけど、ちょっとでも興味持ったことをやらせてあげる場、親が全部物事に精通してるわけじゃありませんから、やっぱり分かってる人にアドバイスをもらいながら習うということが、非常に子供にとって自身もつきますし、また興味が一步深まるんです。そういった場が、意外にありそうでないのかなというのが、見てて思うんですね。だから、パソコンに興味があったらパソコンもタブレットでもいいんですが、ただ単にゲームとかでやらせるんじゃなくて、やっぱりそこにサポーターみたいな人がいて、使い方であるとかちょっと工夫すると自分でもゲーム作れるんだよとか、今、駅北キターレさんでいろんな取組されてると思うんですが、あれを発展させて、できれば空き施設があれば糸魚川地域に4か所ぐらいそういうブースがあってもいいのかなと思ってるんですね。

ただ、まず一步として、駅周辺に、まず1か所そういったものを造ってもらって、そういう子供の興味を育てるといふ取組をぜひこの機会に頑張ってもらっていただければ、糸魚川市の教育水準というのも逆に上がっていくんじゃないかな。そういうふうな捉え方をしてるんですけども、その辺の考え方、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご提案の事柄につきましては、基本的なところで私も同感いたしております。糸魚川の子供たちにとって、経験がなくて成長していく部分が、結構都会に比べてあるんじゃないか。都会は非常にいろんなものがあります。選ぶ事柄がたくさんある中で、やっぱり子供たちが興味を持ったものに触られて成長していく部分があるんですけど、地方の都市においては、やはり人口が少なかったり数が少なかったり経済的なところもあつたりもして、やはり関わらないで触らないで成長していくものが結構あるものが、我々感じておるわけでございまして、なるべくそういうことのない

ようにしていきたい。特に国際化にいたしましてもそんなことがあって、私ども取り組んで部分もあるわけではありますが、それだけではなくて、まだまだそういった機会、地域間格差というのまだ生じてる部分も感じる部分がございます。そんなところも考えながら、今、議員ご指摘のところについてやはりなるべくそういうことのないように取り組んでいきたい。場所については、どこがということは明言できませんが、そのところも頭に入れながら子育ての環境をしっかりと整えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

あと、最後お願いになるかと思うんですが、施設管理で公園、各種いろんな公園がございます。農村公園とかいろんな公園があるんですけども、③番のジオパル、美山、フォッサマグナになるかと思うんですが、いろんな公園があるんですが、結局、所管課による公園の造り方になっていまして、1回シャッフルして、さっきも言った子供たちの成長に寄与するという着眼点で、今ある公園をもっと特徴あるものにしていってもらいたい。お金かけろというんじゃないんです。既定路線で造った公園じゃなくて、もう一遍、今ある施設を子供にどうやったら興味持たせられるのか。地域にあるものを生かして何かさっき言った興味を育てるようなものができるんじゃないかという着眼点で、農林水産課だからとか建設産業の所管だからとか、そういうことじゃなくて、今ある公園をもい一遍見直して利活用できるような物の生かし方というのを再検討していただきたいんですが、そういった公園の利用方法を検討していただくことはできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

たしか今、議員から言われた公園です。公園という定義を見ていきますと都市公園、行政の立場でいうと都市公園ですとか、農村公園とか児童遊園とか、いろんなやり方があって、各所管課の部署のやっぱりラインというのは出てきた。これは今まではそういった造りで、管理もそういった造り、運営もやっているのが現状だと思います。改めてもう一度、今、公共施設、今公園ということでターゲットを絞ってやられますが、改めて目的の、誰に向かって、誰が利用しやすいのか、誰のための、そういった視点でもう一度、施設の在り方、そういったものを点検しながら、改良できるものはどう改良すればいいのか、そういったところをいろんな皆さんの意見を聴きながら、ニーズに合ったものを検討していく必要があるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

最後に、個性の強い公園をたくさん造っていただきたいと思います。

終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

14時55分まで暫時休憩といたします。

〈午後2時45分 休憩〉

〈午後2時55分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の一般質問をさせていただきます。

1、新型コロナウイルス感染症対策について。

(1) 特別定額給付金について。

- ① 特別定額給付金について、給付者数、給付率はどうなっているか伺う。
- ② 特別定額給付金を申請しなかった人について、その理由の把握はされているか伺う。
- ③ 特別定額給付金のオンライン申請の状況については、どうであったか伺う。

(2) ひとり親世帯臨時特別給付金について。

- ① 令和2年6月分の児童扶養手当の受給者については、申請が不要で口座に振り込まれることになっているが、それ以外の対象者については申請が必要とされている。申請書による給付申請数及び追加申請数は、どのような状況か伺う。
- ② 申請書については、市や厚生労働省のホームページを見てもよく分からない。令和2年6月の手当受給者以外は申請し難くなっているように思えるが、いかがか。
- ③ 飲食業やサービス業等で働く、非正規のシングルマザーが、解雇や仕事の減少で窮地に陥っているという全国報道に幾度か接した。糸魚川市内での実態は、どのように捉えているか伺う。

(3) 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言や自粛による市内への影響について。

- ① 売上げ減少や将来を危ぶんでの廃業等は、どうなっているか伺う。
- ② 失業者の増加、生活保護申請の増加といった傾向は、現れていないか伺う。
- ③ 雇用調整助成金、緊急雇用安定助成金の利用状況について伺う。
- ④ インフルエンザ流行時期が近づいてきた。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えた対策は、考えているか伺う。